

これまで数々の個展を開催し、作品を販売されている sUmさん。

祖父のフィルムカメラを手にしてカメラに触れ、そして現在では大判カメラで作品を撮るに至った経緯とお聞きしました。



——初めてカメラに触れたのが、祖父のフィルムカメラとお聞きしましたが、元々、祖父の趣味がカメラだったのですか？

祖父はとても多趣味な人で、カメラもその一つだったんですよ。けど、カメラを手にするきっかけをくれたのは、実は祖母なんです。元々自分は音楽をやっていて、20代はずっと音楽にのめり込んでいた。部屋に籠りながら、音楽を制作していたんですけど、祖母が祖父が遺してくれたカメラを手にして「気分転換に、お祖父さんのカメラ使って、外に出てみたら？」と言ってくれたのがきっかけですね。

—— フィルムカメラで撮った写真をご自分で現像されていますよね。道具を揃え、現像する手間がかかる。それでもフィルムカメラを使う魅力って何でしょうか？

魅力ねえ（笑）。最初に手をしたのがフィルムだったからのもあるんですよ。デジタルの一眼レフも持ってはいるんですけど、すぐに撮ったものが見えてしまうのが面白く無かった。けど、フィルムカメラは違うんですよ。撮ったものがすぐに確認することが出来ない面白さがあるんです。あとはカメラの音ですかね。祖父のカメラがコニカFS-1だったんですけど、フィルムを自動装填してくれる当時としては新しいカメラだったんです。そのカメラの巻き上げの「キューーン」という音が気持ちよくなって。それからフィルムカメラにハマって調べていきましたね。二眼レフだったり、大判カメラだったり。見た目がカッコいいと心に刺さって、使ってみたいってなるんです。最初はそんな感じでしたね。そして、撮影を繰り返していく内に、フィルム独特の粒子に惹き込まれていって、それから道具を揃えて自分で現像するようになりました。